

「考える会」が声明を発表

本日(6月12日) 長浜市 県に高校再編手続きに関する提言を提出

県は 長浜市の第一次提言を受けとめて統廃合原案を白紙に戻して下さい。
よりよい高校づくりに向けて県民討論を始めましょう(声明)

長浜市と「長浜の未来を拓く教育検討委員会」は、県知事、教育長、県議会議員に対して「県立高校の再編手続きに関する提言」(第一次提言)を行いました。

これに関して、「県立高校の統廃合を考える会」は次の声明(要旨)を発表しました。

再編計画の根本問題を出す

提言は、再編計画(原案)には「高校教育のビジョンがない」と指摘し、「夢や希望」を感じるビジョンを示す必要性を提起しています。これは「魅力と活力ある県立高等学校づくり」を目的とする再編計画の根本問題を出したものです。全県一学区化で「特定の地区や学校へ志願者が集中し学校間格差が助長」「地域と高校の関係が希薄になり」とし、「全県一区制度の検証を行った上で、地域と共に高等学校を創り上げること」など、総合的な検討を求めています。

子ども最優先の結果とは言えない

提言は、再編計画は「行財政改革」から出発し「子どもたちの教育環境の充実を最優先に考えられた結果とは、到底、言えないものである」とし、「効率重視の『適正規模論』を根拠として、大人の都合で教育を論じ、そのしわ寄せを子どもたちが受けることは断じて許されるものではない」と指摘しています。

県民本位の計画策定 3つの仕組みを

提言は、「高校教育現場の教職員の声や中学校や小学校、市町教育委員会の意見が届いているとは思えません」と厳しい認識を示し、県民本位の視点に立った計画策定の3つの仕組みを提起しています。1つ目は、地域ごとに意見集約の機会・場所を設けることです。2つ目は、時間をかけて地域とすそ野の広い対話を重ねることです。3つ目は、学校現場

の声がしっかり反映される仕組みをつくることです。

教育の原点に立ち返って再検討を

提言は、「再編原案に決して拘泥されることなく十分な時間を確保して県民が期待する『魅力と活力ある県立高等学校づくり』に向けて慎重かつ丁寧な計画づくり」を求めています。

最後に、提言は「未来の高校教育に禍根を残すことがないように、県民が参画でき、誰もが納得できる手順を踏まえて、県民的な合意形成を図られるべきである。今一度、教育の原点に立ち返って再検討されることを改めて強く求める」としています。

県民の総意を凝縮した提言 一堂に会して旺盛な討論を

この提言は、長浜市民はもとより、あちこちで噴き出している地域住民の声、さらには県議会の意志など、いわば県民の総意を凝縮したものだとして評価できます。

私たちは、知事と教育長がこの提言を真摯に受け止め、統廃合計画(原案)を一旦白紙にもどし、よりよい高校教育に向けた総合的な改革に踏み出すことを強く求めます。同時に、学校・地域・県段階で、地域住民と教職員が一堂に会して、よりよい高校をつくるための旺盛な討論が行われるよう呼びかけるものです。

2012年 6月12日

県立高校の統廃合を考える会

ストップ高校統廃合速報 2012年度第5号

2012/6/12 県立高校の統廃合を考える会

077-522-4965 FAX 077-522-4978

(掲示・増し刷り・回覧などで全教職員にお知らせください)